

## 患者の皆様へ

2020年 6月 26日 婦人科

当院で診断、治療される患者さんの診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

### 1. 研究課題名 体外受精胚移植における胚の受精能・胚発生能の後方視的検討

### 2. 研究の意義・目的

体外受精胚移植では受精卵を5-7日間かけて胚盤胞と呼ばれる着床直前の状態まで培養してから子宮内に移植する。胚盤胞への発生率は概ね50%前後であるが、発生率は年齢や合併症などの患者背景、排卵誘発方法、培養条件などの影響を受けることが知られています。従って、移植可能な胚盤胞を高率に作出する治療方法の見極めが、体外受精の成績を大きく左右します。

本研究では最適な治療・胚培養環境の確立を目指すため、当院での治療成績をまとめ体外受精の胚盤胞発生率と患者背景、排卵誘発方法、培養条件との関連を検討します。

### 3. 研究の方法

2016年から2019年に、千葉大学医学部附属病院で体外受精を施行した患者さんを対象に以下の項目をカルテおよび培養記録上調査します

#### 1. 患者背景因子

病名(不妊症)、年齢、性別、身長、体重、合併症、既往歴、妊娠歴、不妊期間、合併症

#### 2. 検査値(月経開始時、排卵誘発期間中、胚移植時、移植後)

黄体化ホルモン(LH)、卵胞刺激ホルモン(FSH)、エストラジオール、テストステロン、プロゲステロン、抗ミューラー管ホルモン、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(hCG)、

#### 3. 体外受精方法

媒精方法、媒精時間、卵割時間、培養時間、卵子獲得卵胞の大きさ、使用培養液

#### 4. 治療成績

卵子あたりの正常受精卵由来の胚盤胞発生率、卵子成熟率、受精率、異常受精率、臨床的妊娠率、着床率、流産率、生産率、先天性奇形率

#### 4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は匿名化して解析し、外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しません。データ等は、千葉大学大学院医学研究院生殖医学教室の鍵のかかる棚で保管します。

#### 5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省、厚生労働省が定める「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年12月22日)に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院婦人科

本件のお問合せ先 : 千葉大学医学部附属病院婦人科

医師 石川 博士

043(222)7171 内線6893 (婦人科外来)